

# 泉南走ろう会

連絡

”

フルマラソン大阪(長居)大会、  
篠山マラソン大会 観戦して

“

会長 遠健三

“

兩日とも天候に恵まれ、マラソン日和である。我が泉州走ろう会より、3月冒頭、大阪大会に三名、

3月2日篠山大会に五名参加する。大会は大変な人出である。選手応援の家族、友人そして駕次馬が集まる。選手は美にカラフルである。老若男女皆んなが張り切っている。しかし実に和気藹々である。選手は緊張、フレッシュで元気どころではないと思われるが、大歓声では以前のように倒れることなく走るというようだ。が、主催者の挨拶にあるように、この大会はフルマラソンの登龍門である。見て初参加と思われるようでは選手が多い。さて、スタートする、皆んなが真剣に走る。真剣な姿には感動を覚える。若い選手がグループで「やった」と言い、立場にへばへばと倒れたり。その選手に「やりき」には、お口出とうこと声をかけると、その選手が「やりました有難う」と言っていた。印象に残ります。また、篠山でトッカランナーがゴールするときの時間に早くも関門通過ならず、会場に送り届け、その後選手が

泣いていたのは印象的です。泉州走ろう会選手もよく頑張りました。一名を除いて、完走お目出とう。心から祝福を申し上げます。完走ならなかつた選手、来年は頑張ってもういふと思ひます。練習もよそなうが、ために、参加するという意気込みは立派、来年は頑張ってもういふと思ひます。

我が泉州走ろう会にもこんなのがありますよ。

一、栗野原選手、3月4日大阪大会、3月11日、篠山大会、週間おさりフルマラソン大会(3月11日)タイムにて完走、立派立派努力賜り感謝します。

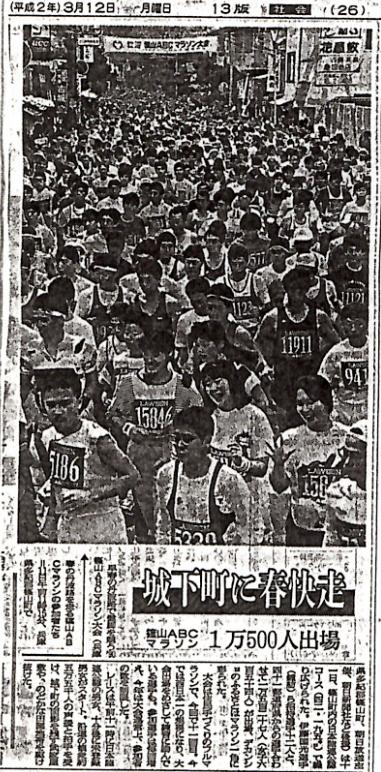
二、牧野選手、3時間三分一一秒、ジガーライザブスリーにもう少し、正式なタイムは後日本人完走に通知があると思われますが、惜しい惜しい、平素の精進の賜です。

三、梶選手、大会で周回店舗用ゴムドーナツ券、本来ならば、もうゴールだが、自暴の納得いくレースとなり、一周余計に走る。結果四五キロ走ったことに分る。好タイムにて完走。おやまあ……だいたもつた。

(余談)  
てなことでフルマラソン大会は盛り上り長居、は選手とそして応援に駆け下ります。私はすっかり迷走いたしました。深くお詫びいたします。また篠山大会では天王寺で選手として岡田さんの友人へこの方も篠山来走るとともに祝杯を上げる。毎度くちんでばかりではさゝやかにそそぐ愉快に楽しむのはいいことだと思います。今度は参加を見合わせられただ方がおうへすますが、来年は是非、参加いたしましょ。

では明日から頑張りましょう。

四、岡田選手、マラソン初参加で篠山マラソンをタイムにて完走、敬服いたします。  
継続は力なり、今後も期待いたします。



1万500人出場



何故走るか道がどこにあるか?

高速道路を或る阿保な男は、さも樂しそうに走っている。彼は高速公路も走るのは、今回が始めてではない。カансスは一度、一回限りの高速道路のランニングとか言て、阿部野・松原間の高速、阪神の高速、と、富山の高速、那谷の高速、全線開通記念の二回も、あれもフル走そる。それだけではなし。九州は小倉の高速まで走りに行そる。何が彼のもううござるか?

彼は機会があつて後日、どの道路をバス車には車で往来すると、彼はこの道路を半喜び、ながら、走ったのみ。カансスは一度、いまこの道路を走らることは出来ない。何思ひ出にひたるのである。そして今度は泉南市より岸和田までの二三キロ高速である。開通は間近。それまでに走らねばならない。機会と狙つ。カансスは来て。高速公路建設に伴う側道を使はんねんに何度も走っている。あそこの取付けようず高速公路に入れる。これはあそんからだ。朝七時では建設作業、段取り車がそこ八時では作業開始だ。こんな時間帯に走そ、とは「工事の邪魔だ、立入禁止」がうれりである。それで朝八時までに通過せねばならない。彼は朝四時三十分新幹線をスタートする。五時、高速公路に入る。外は真暗だ。街の灯があかくとも、とうとう山を切り開いた道で景色が見えない。今までの高速公路もとうどあつた。景色が余り見え

ない只一本の道は続くな。彼はひたすら走る。最初の日は、新家より岸和田まで距離は約二十キロだとすると、次の日は岡中まで約三十キロだ。どちらも大しにことはなし。夜が明けた。

彼はこのあたりは何處だと何度も足を止める。途中、某生張付工事の人に「岸和田はまだです」と声をかける。すると工事人は「もう遠くに、何處から来た」と聞く。「泉南市より来た」と答えるといいしにものだ。頑張ってと声をかけられる。「OK、OK」と走る。約二時間でゴールする。三キロは途中、ウロ、カロ、約一十五分であった。これが泉南市より岸和田までのコースを完全ランニングする。ペッヘル、ワシより外にこえなことする奴はおまか知り。彼は満足である。何保と違うが、もう何保である。でないと暗い中、高速公路を、そしてトンネルの中を走らない。

何故走るか道がどこにあるからだ

挑戦である。



”篠山マラソン”  
だからこそ、また挑戦

牧野源泉

せめて年に一度は「マラソン」という思い

か篠山マラソンに参加してきて、今年で三度目。

「走ろう会」からは、栗野原さん、岡田さん、西田さん、川本さん、それに他の五人が出場しました。

めでたく、五人とも完走トrophieを手にしたことを報告します。

いよいよそこから始まるわけではありませんがフルマラソンをしていくという実感は、後半にたっぷりと出てきました。篠山のいたずまいと春の景色を楽しもうと、うる裕は、とうに消え失せてました。飛騨山峠を上りきってから5km地点までは3kmと少しなのに、これが何と長く感じられただとか。「表示を見落としてしまったのだろう。どうそろあと5kmの表示があともう見えない」とか。結局、それがむなし勝ちでうなづんだが、錯覚と分たのは、望まない方の表示を確認してその地点を通過した時でした。このあたりではもう、そうすることほどてもさついが意識してやと足を前に出すことしかできませんでした。

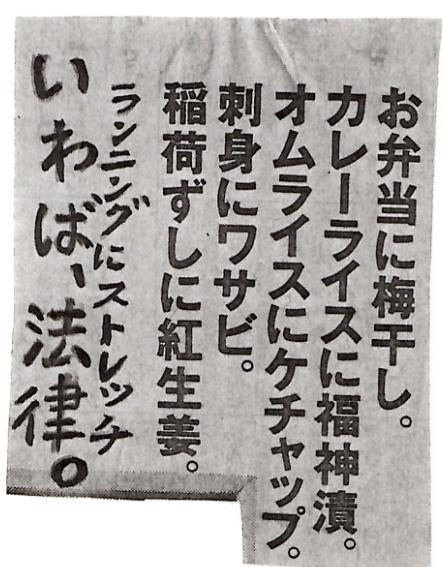
確かに、右道から「頑張れ」という声援や拍手はありました。都合悪いことに、それらずす、なぜか前の方を走り、女性ランナーに向けられてくる、としかひがめないことになりました。実際、私が通り過ぎる時には、拍手

はまばうで、音も弱まり、ほとんど終りかけ。このままでは、ますじ」と思うが、彼女を抜き、走るようには体がついてきません。かといって、引き離さず、たくもありません(最後は差をかなり広げました)。1km単位でカウント・ダランの表示が始まり、残り5kmからは、早くゴールして樂になりた、という気持ちが、ますます強くなってきました。家の周りで、慣れてコースに置き換えて、あとどんづらどこまで等と対応させながら、必死で歩を前に進めました。そして、何とかゴール。

以上がフルマラソンを走っていることを実感して、いた過程です。いまづく思います。私にはとても、フルマラソンは「走って、だつて、いつの間にかゴール」というものではありますんでした。どんなもうで、だなつば、「ゴールした時のあの安堵感は、なかつたでしょう。同時に湧いてきた嬉しさは、「よく頑張った」と心の中で違う自分への拍手と思われますが、それもないつたでしょ。達成感のいわゆるとおり、マラソンはまさに「挑戦」でした。あるいは、「苦レナとの戦い」といは、それに負けまいとする気持ちの表現として、わよかもれません。

いま一つ思うことがあります。達成感がわざや、練習まで同行されて、スタート時とゴール時に、それぞれ適当な場所を選び、相次ぎ重り合て駆けて来る選手の中から、私達が、目ざとく見つけて、あのように大きな声と身が

リで応援して下さったのは、すべてを熟知した(市民ランナーの)心意気であたかうど、末尾ながら、記して謝意を表わしく思います。



### ※ おわび

今日は事務局の勝手な都合で機関紹介が遅れ、ご迷惑をおかけします。こと、おわび申し上げます。